

高齢者が安心して働き続けるために

高齢者災害防止に係る リスクアセスメントの実施を!

高齢者の
特性に配慮した
職場づくりが
事故防止の第一歩!

～職場の危険・有害要因を見える化し、災害を未然に防ぎましょう～

? なぜ、高齢者のリスクアセスメントが必要なのか?

- ✓ 高齢者(60歳以上)は、身体機能の低下や経験の偏りなどにより 若年層とは異なるリスクに直面しています。
- ✓ 転倒、墜落・転落、動作の反動などの災害が多く発生しています。
- ✓ 職場環境や作業方法を見直し、高齢者の特性に配慮することで、災害を防止できます。

高齢者に見られる特性の例



体力・筋力の低下

疲れやすく、回復に時間がかかる



視力・聴力の低下

小さな文字や音が見えにくい・聞こえにくい



平衡感覚の低下

つまづきや転倒のリスクが高まる



記憶力・判断力の低下

複雑な判断や新しい作業の習得に時間がかかる

※ 個人差があり、すべての高齢者に当てはまるものではありません。



リスクアセスメントの進め方(5ステップ)

高齢者の特性を踏まえ、職場のリスクを見つけ、対策につなげましょう。

① 準備



- ・関係者(管理者、作業員、産業保健スタッフ等)で実施体制をつくる
- ・高齢者の作業状況や災害事例を収集する

② 危険性・有害性の特定



- ・作業、設備、作業環境の中にある危険性・有害性を洗い出す
- ・高齢者にとって負担が大きい作業や場面に着目する

例・床の段差、滑りやすい場所
・重量物の取扱い
・高所作業、階段の昇降
・照度不足、湿度、騒音 など

③ リスクの見積り・評価

		発生の可能性		
		低	中	高
重 度 度	高			
	中			
	低			

- ・危険性ごとに「重篤度」と「発生の可能性」を評価し、リスクを見積もる※
- ・優先的に対応すべきリスクを決定する

※ リスク評価にマトリックス法を用いる場合

④ リスク低減措置の検討・実施



- ・リスク低減のための対策を検討する(本質的対策を優先)
- ・実施可能な対策から計画的に実施する

例・作業方法の見直し
・設備・環境の改善
・補助用具の購入
・作業の分担・休憩の確保など

⑤ 効果の確認・見直し



- ・対策の実施状況と効果を確認する
- ・必要に応じて見直しし、継続的に改善する

リスクアセスメントは一度きりではなく、定期的、継続的に実施することが重要です。

高齢者のリスクアセスメントで特に着目したいポイント



転倒リスクの低減

段差・滑り・つまづきの原因をなくし
整理整頓や床面の改善を行う



無理な動作の防止

重量物の取扱い方法を見直し、
補助機器の活用や作業分担を行う



見やすく・聞きやすい環境づくり

照明の確保、表示の工夫、音声・警報の工夫などを行う



作業負担の軽減と休憩の確保

作業のペースに配慮し、適切な休憩・
水分補給を確保する



情報の伝え方・教育の工夫

わかりやすい説明、繰り返しの教育、
作業手順の見える化を行う

高齢者の
働きやすい
職場環境の
形成を!

実施にあたってのチェックリスト(例)

- ☐ 高齢者の視点を取り入れてリスクを洗い出している
- ☐ 作業環境(照度、温度、騒音等)を確認している
- ☐ 高齢者の作業内容や体力・健康状況を把握している
- ☐ 転倒、墜落・転落、動作の反動等のリスクに着目している
- ☐ 本質安全化や工学的対策を優先的に検討している
- ☐ リスク低減措置に高齢者の意見を反映している
- ☐ 教育は、高齢者に配慮した内容・方法にしている
- ☐ 対策の実施後、効果を確認している

リスクアセスメントの例は裏面へ



リスクアセスメント(マトリックス法)の概要

作業に潜む危険性・有害性について、「重篤度」と「発生可能性」を組み合わせることでリスクを見積り、優先度を決めて対策につなげます。

① 重篤度の区分

(被災の程度・災害の程度)

致命的・重大
×

- ・死亡災害や身体の一部に永久的損傷を伴うもの
- ・休業災害(1か月以上のもの)、一度に多数の被災者を伴うもの

中程度
△

- ・休業災害(1か月未満のもの)、一度に複数の被災者を伴うもの

軽度
○

- ・不休災害やかすり傷程度のもの

② 発生可能性の度合の区分

(災害の起こりやすさ)

高い
(比較的高い)
×

- ・毎日頻繁に危険性・有害性に接近するもの
- ・かなりの注意力でも災害につながり、回避困難なもの

可能性がある
△

- ・非定常的な作業で危険性・有害性に時々接近するもの
- ・うっかりしていると災害になるもの

ほとんどない
○

- ・危険性・有害性の付近に立ち入ったり、接近することは滅多にないもの
- ・通常の状態では災害にならないもの

③ リスクの見積り(マトリックス表)

		重 篤 度 (被災の程度)		
		致命的・重大	中程度	軽度
発生可能性の度合	高い (比較的高い)	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
	可能性がある	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
	ほとんどない	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ

発生可能性の度合(災害の起こりやすさ) →

④ 優先度の目安 (対応の目安)

Ⅲ (高リスク)

直ちに解決すべき、または重大なリスクがある。
措置を講ずるまで作業を停止する必要がある。

Ⅱ (中リスク)

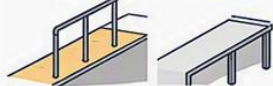
速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある。
措置を講ずるまで作業を行わないことが望ましい。

Ⅰ (低リスク)

必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
必要に応じて対策を実施する。

⑤ リスク低減措置の検討・実施(対策の優先順位) ※1で実施したリスクアセスメントの結果に基づき検討します。

① 本質的対策 (危険の除去・低減)



- ・段差の解消、手すりの設置



- ・台車の活用、作業方法の見直し(持ち上げ作業の負担軽減など)

② 工学的対策 (設備・装置による対策)



- ・照度の確保、採光の改善



- ・床の滑り止め、整理整頓の徹底(水・油のこぼれ対策など)

③ 管理的対策 (作業・管理面の対策)



- ・作業の見直し、休憩時間の確保(作業量の調整、作業の分散など)



- ・作業手順の明確化、声かけ・見守り(コミュニケーションの活性化)

④ 個人用保護具の使用



- ・滑りにくい靴、手袋の使用



- ・暑熱対策用品の着用、水分補給の徹底

～2つの実施例を参考にリスクアセスメントを実施しましょう～

ケース1～腰痛～

作業内容	予見される災害	可能性	重篤度	評価	リスク低減措置	可能性	重篤度	評価
介護による移乗作業	移乗中、利用者がバランスを崩したため、支えようとして腰を痛める	×	△	Ⅲ	・介護用補助リフトを導入し、利用させる。	○	○	Ⅰ

ケース2～転倒～

本質的対策を行った結果、許容できるリスクに低減された

作業内容	予見される災害	可能性	重篤度	評価	リスク低減措置	可能性	重篤度	評価
移動中	移動中、慌てていたため何もないところで足先が突っかかり、転倒する	×	△	Ⅲ	・繁忙時に慌てることのない作業量への見直し ・転倒災害に関する教育	△	△	Ⅱ

職場のあんぜんサイト
(災害事例集)



転倒等リスク評価
セルフチェック票



行動災害防止に向けた
取り組み



本質的対策や工学的対策を行っていないため、リスクは残っていることに注意する



ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省 宮崎労働局・日南労働基準監督署

Ministry of Health, Labour and Welfare

(R8.9)